

# 新型コロナが女性たちにもたらした“もう一つの危機”

—これからの幸せに必要な視点は？—

全8回講座

受講無料・託児あり

新型コロナの影響で様々な問題が見えてきました。そこには男女平等な社会へつながるポイントがいくつもあります。モヤモヤしているのはあなただけじゃない！今こそその問題へ目を向けて考え、行動へつなげる一歩を踏み出そう！

1

## ステイホームで家事負担増！“女性にしわ寄せ”でホントにいいの？

10月18日(日) 13時30分～15時

講師 竹信三恵子さん(ジャーナリスト/和光大学名誉教授)

ステイホームが奨励されることにより、女性の無償労働の負担増がクローズアップされてきました。新型コロナが収束し、通常の生活に戻れば解決？？当然のように多くの女性が抱えている家事・育児・介護の今後のあり方、とらえ方を考えましよう。



新型コロナウイルスの感染拡大は、あまりにも日常的すぎて見えなかったジェンダー差別の問題に改めて光を当てました。「ステイホーム」によって女性の家庭内での労働の重さが注目され、給付金の支給では風俗産業への差別意識も表面化し、世帯主に支援の資金が集中することの歪みも見えてきました。「コロナ後」の世界では、こうした差別の克服が必須です。そのために何ができるかも含め、一緒に考えていきましょう。



※竹信三恵子さんには第3・6・7回の講師もお願いしています。

2

## 世界一“夫が家事をしない国”で疲れ気味のあなたへ—罪悪感なく8割家事捨て！—

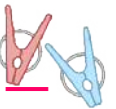
11月7日(土) 13時30分～15時30分

講師 佐光紀子さん(家事研究家/翻訳者)

日本は家事をしすぎ？外国の様子や政府の方針、女性自身が刷り込まれてきたこと…などから分析。「きちんと」家事をしなければ子どもは「ちゃんと」育たない？…こんなモヤモヤから解放されよう！



家事は愛情のパロメーター。おいしい手作りの食事を作り、「きちんと」家族の面倒を見て、「ちゃんと」家を片づけるのがいい妻、いい母。私たちはそうすり込まれて育ってきました。「きちんと」した家事って何でしょう？ どうして「ちゃんと」してなきゃいけないの？鬱になるほど家事に追いつまれる前に、深呼吸をし、気楽に家事をシェアする方法を考えて見ませんか？



3

## コロナ対策の違和感—職業差別？“風俗除外”がダメだったホントの理由—

11月28日(土) 13時30分～15時

講師 竹信三恵子さん(ジャーナリスト/和光大学名誉教授)

生活者の実態を分かったうえで、政策を立てなければ、どれだけの外れでどれだけの弊害をもたらすことになる？性別や職業、立場によって差別を受けることのない対策を！するどい視点でわかりやすく解説。



## 4 東日本大震災から新型コロナまで“変わらぬ痛み”—シングルマザーを救え—

12月12日(土) 13時30分～15時

講師 田宮遊子さん(神戸学院大学准教授)

貧困率5割を超えるシングルマザー家庭の仕事、収入、育児3つの側面にどのくらいコロナ禍の影響があった？東日本大震災時の調査も踏まえ、非常時の実態を知り、自分たちができることを考えよう。



不測の経済危機は多くの人々の生活に影響を及ぼしますが、すべての人に等しく影響を及ぼす訳ではありません。新型コロナウイルス感染拡大による社会的な影響も、危機前の仕事、家族や健康状態などにより、深刻さは異なってきます。新型コロナウイルス危機の影響について、東日本大震災という自然災害に直面したシングルマザーの調査結果も参考にしながら検証します。



## 5 ステイホームだからDVが増えるのか？根っこの問題はどこに？

1月16日(土) 13時30分～15時

講師 北仲千里さん(広島大学ハラスメント相談室准教授/  
NPO 法人全国女性シェルターネット共同代表)

DVはステイホームが原因で起こるのでしょうか？暴力が起きる日頃からの社会のあり方と同時に、非常時のDV被害者のさらなる困難について理解することで、私たちができることは何かを考えよう。



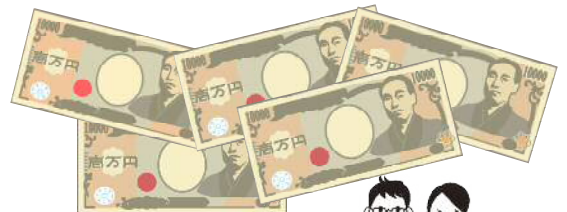
COVID-19の感染拡大と、外出自粛が進み始めた時、私たち民間DVシェルターの支援者は、これで絶対DVや虐待が深刻になると思いました。それは別に家に閉じこもっているから、というだけではないのです。政府の緊急のDV対策についてもご紹介しながら、そもそも日本のDV・性暴力・虐待対策は十分なもののなか、本当はどういうものであるべきなのかについて考えます。

## 6 私の給付金10万円夫に「ください」なぜ？—知っておくべき“世帯”意識の間—

2月6日(土) 13時30分～15時

講師 竹信三恵子さん(ジャーナリスト/和光大学名誉教授)

なぜ世帯主に「給付金をください」とお願いしないといけない？それが「死ぬほどストレス」という人、世帯主の口座に家族分が振り込まれることで自分の存在が否定された気分になる人…。全ての家族・夫婦の関係が良いわけではない。世帯という単位の問題を考えてみよう。



## 7 コロナ時代のピンチをチャンスに！—今こそ男女平等政策が必要なワケ—

2月20日(土) 13時30分～15時

講師 竹信三恵子さん(ジャーナリスト/和光大学名誉教授)

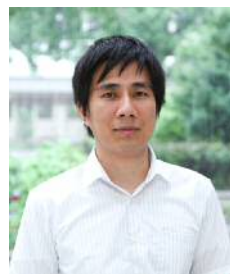
マレーシア政府はコロナ禍、SNSで女性に対し、家事をする際、夫に文句を言うのを控えろえもん(声)をまねて甘えるように伝え、強い反発を招いた。実は日本も他人ごとではないのです。政策にジェンダーの視点が必要なワケを、新型コロナへの対応をとおして考えます。

## 8 気づきから社会を変える行動へ—事例を通して学ぶ

3月6日(土) 13時30分～15時30分

講師 濱西栄司さん(ノートルダム清心女子大学准教授/  
地域連携・SDGs推進センター主任)

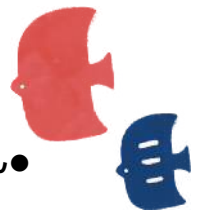
ノートルダム清心女子大学の学生の声からキャッチ(執拗な勧誘行為)も処罰の対象とする迷惑防止条例の改正へつなげた経緯の話も踏まえ、自分たちができることを、ワークショップをとおして考えよう。



新感染症が改めてあぶりだした問題、それ以前から続く問題、さまざまな違和感や苦しみ、悲しみ、気づき、驚き、ショック、トラウマ。それらをどのようにして社会を変える行動へとつなげていくことができるか。友達が、知り合いが、他人が、苦しんでいるとき、行動しようとするときにどう支援できるか。小さな声をどのように聴き、集め、うねりにしていくか。どうすれば成功し、あるいは失敗するのか。最新の研究と、県条例改正の取り組みとをヒントに、一緒に考えていきましょう。



## 講師紹介



### ●第1・3・6・7回講師 竹信三恵子（たけのぶ・みえこ）さん●

ジャーナリスト/和光大学名誉教授

1976年、朝日新聞社に入社。同社編集委員兼論説委員、和光大学現代人間学部教授などを経て、2019年退職後、同大名誉教授。ジェンダー差別や労働について報道を続け、「貧困や雇用劣化、非正規労働者問題についての先駆的な報道活動」に対し2009年、貧困ジャーナリズム大賞。著書に『ルポ雇用劣化不況』（岩波新書、日本労働ベンクラブ賞受賞）、『しあわせに働ける社会へ』（岩波ジュニア新書）、『家事労働ハラスメント』（岩波新書）、『正社員消滅』（朝日新書）、『企業ファースト化する日本～虚妄の「働き方改革」を問う』（岩波書店、新刊として2020年6月に『10代から考える生き方選び』（岩波ジュニア新書）など。



### ●第4回講師 田宮遊子（たみや・ゆうこ）さん●

神戸学院大学経済学部准教授。

専門は社会保障論。お茶の水女子大学博士後期課程単位取得退学(2005年)。主な著書・論文に、「母子世帯の貧困と低賃金に対する政策効果についての分析」(2019)『社会政策』第10巻第3号、共著『被災経験の聴きとりから考える：東日本大震災後の日常生活と公的支援』(2018)生活書院、「親の配偶関係別にみたひとり親世帯の子どもの貧困率—世帯構成の変化と社会保障の効果」(2017)『社会保障研究』第2巻第1号、「高齢期女性の貧困：レスキュー事業利用者からみる生活困窮の実態」(2016)『個人金融』第11巻第3号、他。



### ●第8回講師 濱西栄司（はまにし・えいじ）さん●

ノートルダム清心女子大学文学部現代社会学科准教授。

2019年度より同大学地域連携・SDGs推進センター主任。

2020年度より岡山市男女共同参画専門委員会副委員長。

専門は社会学（社会集団・組織論）。京都大学大学院文学研究科社会学専修博士後期課程修了。博士（文学）。著書に『社会学入門』『社会学史入門』『誰も切らない、分けない経済時代を変える社会的企業』『問いから始める社会運動論』『トゥレーヌ社会学と新しい社会運動論』他。

### ●第2回講師 佐光紀子（さこう・のりこ）さん●

家事研究家/翻訳者

アメリカの環境活動による重曹などを使った家事本の翻訳をきっかけに、自然素材を使った家事を始める。後、日本の暮らしにあった重曹、クエン酸の使い方を提案した「ナチュラル・クリーニング」を上梓。子どもにも使える安全な素材という視点から家族での掃除、家事分業などについて情報を発信。50代になって大学院に戻り、日本の女性の家事負担について海外との比較した論文で修士号取得。以降、家事シェアについても著作活動を展開中。主な著書に「家事のしすぎが日本を減らす」「家事は8割捨てていい」「もう、女の家事はやめなさい」など。



### ●第5回講師 北仲千里（きたなか・ちさと）さん●

広島大学ハラスメント相談室准教授。専門は社会学（とくにジェンダー論）。

1997年ごろより「キャンパス・セクシュアル・ハラスメント全国ネットワーク」設立にかかわる。現在NPO法人全国女性シェルターネット共同代表（代表理事）、NPO法人フェミニストサポートセンター・東海理事、NPO法人性暴力被害者サポートひろしま代表理事、広島市男女共同参画審議会委員。

—主な著書など—■「第8章 悩む DV、ストーカーとジェンダー」『ジェンダーで学ぶ社会学 改訂版』伊藤公雄・牟田和恵 編 世界思想社2006年■共著「ドメスティック・バイオレンス対応に関する弁護士向け研修プログラムの作成」『法と実務7』日弁連法務研究財団編 2008年5月■「第3章 男性性研究はジェンダーに基づく暴力をどこまで読み解いたか」『身体、性、生—個人の尊重とジェンダー』杉浦ミドリ・建石真公子・吉田あけみ・来田享子 編著 尚学社2012年■『アカデミック・ハラスメントを解決する』寿郎社 横山美栄子との共著2017年8月他



## 募集要項

■募集人数■30名 ■受講料■無料 ■対象■内容に関心のある人。なるべく全8回出席できる人。

■会場■岡山市男女共同参画社会推進センター「さんかく岡山」

■託児■あり・無料・定員5名・生後6か月～就学前

全8回通してお申込みの受講者を優先して、託児を受付けます。

受講申込書の託児欄に必要事項をご記入の上、お申し込みください。託児の可否は後程ご連絡いたします。

■申込方法■受講申込書(裏面)に必要事項を記入し、郵送、FAX、E-mail、持参もしくはこちらから

10月3日(土)までに「さんかく岡山」へお申し込みください。

申込者多数の場合は抽選により受講者を決定いたします。

受講の決定については10月4日(日)以降に郵送でご案内します。

■非常時対応等■原則、対面講義で予定していますが、自然災害、新型コロナウイルスの感染拡大の影響等により、

・オンライン講義になる可能性があります。オンライン受講の環境がない、あるけどどうすればよいか分からない方は早めにご相談ください。

・状況によっては、日程の変更、中止等も考えられますのでご了承ください。

→ 詳細は裏面をご確認ください。



